

臨床研究に関する公開情報

東京科学大学病院では、より良い診断・治療を目標として様々な臨床研究を行っております。今回下記の多施設臨床研究を実施いたしますので、研究の計画・方法についてお知りになりたい場合、患者さまご自身のカルテ情報を研究に利用されることをご了承できない場合などがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、研究にご了承できないことをお申し出いただいた場合でも、患者さまの診療に不利益が生じることは一切ございません。

〔研究課題名〕 Photon-counting CT (PCCT) により算出される細胞外容積分画(ECV)と患者背景・予後の関係を調べる研究

〔研究責任者〕 循環器内科 准教授 米津 太志

〔研究の概要〕 冠動脈 CT 検査は心臓の周囲を走行する冠動脈を描出する検査です。虚血性心疾患（狭心症や心筋梗塞など）は冠動脈の狭窄に伴い心臓の筋肉への血流が滞ることで生じる疾患であり、生命予後を脅かす疾患であり、冠動脈 CT を施行することで狭心症を予測が容易にできるようになり、不要な心臓カテーテル検査を減らすことができます。また高齢化社会における現代においては心不全パンデミックを迎えつつあり、心疾患を抱える患者様は増加の一途を辿っています。近年、新たな CT 技術として Photon-

counting CT (PCCT)が開発され臨床応用され、以前のCT検査よりもより高い解像度を持つCT画像が得られており、当院においても2024年10月以後導入し実臨床において非常に有益な情報が得られています。

また冠動脈CT検査によって、心筋細胞の間に繊維化や浮腫を示唆するECV (Extracellular volume fraction) が測定できるようになっており、虚血性心疾患のみならず、弁膜症や心不全や心筋炎や心臓アミロイドーシスなどの心筋症においてECVとの関連が報告されています。しかしながら、PCCTによるECVに関する知見はまだまだ不足しており、現在でも十分な解明がなされていません。当院でも多くの患者様がPCCTによる冠動脈CTを施行されており、ECVの解析を行うことでそれによって患者さま一人一人の病態の解明、それぞれの疾患に対する新たな治療方法の一助になる可能性があります。当院で行われたPCCTによる冠動脈CT検査の画像データを使用させていただき、ECVを基にした評価方法の有用性を調査したいと考えています。研究は全て保険診療の範囲内で得られたデータを使用しますので、研究に関連して通常診療より多くの侵襲が患者さまに加わることはありません。

〔研究の方法〕

●対象となる患者さん

2024年10月1日からPCCTによる冠動脈CTを施行され

た患者様（ただし未成年者は除きます。）

●研究に用いるカルテ情報

カルテ情報：

診断名、年齢、性別、身体所見、PCCT 検査結果、検査結果(血液検査、心電図検査、心エコー図検査、冠動脈造影検査、冠動脈生理学的検査)等。

[情報の利用を開始する予定日]

研究機関の長の許可後

[情報の提供を行う機関の名称及びその長の氏名]

東京科学大学病院 院長 藤井靖久

[提供する情報の取得の方法]

電子カルテから個人を識別できない状態で情報を抽出します

[提供する情報を用いる研究に係る研究責任者]

東京科学大学病院 循環器内科 米津 太志

[情報を利用する者の範囲]

本研究の研究代表者、解析責任者、研究分担者

[情報の管理について責任を有する者]

東京科学大学病院 循環器内科 米津 太志

[問い合わせ先]

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出ください。

また、情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

〒113-8510 東京都文京区湯島1丁目5-45

東京科学大学病院

電話 03-3813-6111（代表）

連絡先対応者

循環器内科 准教授（研究責任者） 米津 大志

循環器内科 特任助教（解析責任者） 菅野 義典

＊お問い合わせ内容によっては、こちらから改めてご連絡をさせて頂くことがあります。あらかじめご了承ください。